

担当医/指導医	/	
目的	<input type="checkbox"/> 積極的治療	<input type="checkbox"/> 症状緩和
	<input type="checkbox"/> 術前補助	<input type="checkbox"/> 術後補助
告知程度	<input type="checkbox"/> 全告知	<input type="checkbox"/> 部分告知 <input type="checkbox"/> 未告知
告知内容	<input type="checkbox"/> 癌(原発・再発・進行)	
	<input type="checkbox"/> 抗癌剤を使用する	
服薬指導	<input type="checkbox"/> 依頼する	
	看護師()	薬剤師()
身長: cm 体重: Kg		
体表面積 m ²	HBV感染スクリーニング	<input type="checkbox"/> 確認済み

大腸癌 FOLFIRI+アービタックス療法(インフューザーポンプ使用) 1コース 2週間

投与開始日 年 月 日 コース予定

● アービタックス 初回 400mg/m ² Day1	計算量:	mg	投与量:	mg
● アービタックス 2回目以降 250mg/m ² Day1、8 (一般名セツキシマブ、商品名アービタックス)	計算量:	mg	投与量:	mg
● レボホリナート 200mg/m ² Day1	計算量:	mg	投与量:	mg
● CPT-11 150mg/m ² Day1 (CPT-11: 一般名イリリテカン、商品名カンプト)	計算量:	mg	投与量:	mg
● 5-FU(急速静注) 400mg/m ² Day1	計算量:	mg	投与量:	mg
● 5-FU(持続静注) 2400mg/m ² Day1 (5-FU: 一般名フルオウラシル、商品名フルオウラシル)	計算量:	mg	投与量:	mg

【投与スケジュール】

初回 Day1	30分	1)パロノセトロン点滴静注バッグ 0.75mg/50mL 1V デキサート 1.65mg 5A ポララミン 5mg 1A		
	2時間	2)生食500mL 1V アービタックス※()mg		
	アービタックスと 同じ速度で	3)生食50mL 1V	《4-1)と4-2)は同時に投与》	
	2時間	4-1) 5%TZ 250mL 1V レボホリナート ()mg	90分	4-2) 5%TZ 250mL 1V ブスコパン 20mg 1A カンプト ()mg
			5)生食 30mL bolus5-FU ()mg	
	インフューザー 46時間	6)生食 100mL 2V 5-FU ()mg	全開	全量230mLになるように、 生食の量を調節
	7)ヘパリンNa点滴用10単位/mLシリンジ10mL 1A			

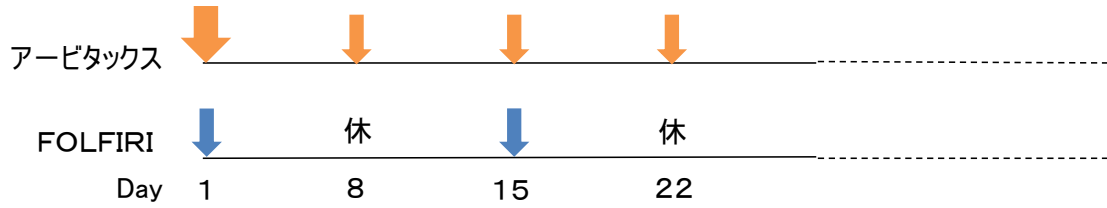
2回目 以降の Day1	30分	1)パロノセトロン点滴静注バッグ 0.75mg/50mL 1V デキサート 1.65mg 5A ポララミン 5mg 1A		
	1時間	2)生食250mL 1V アービタックス※()mg		
	アービタックスと 同じ速度で	3)生食50mL 1V	《4-1)と4-2)は同時に投与》	
	2時間	4-1) 5%TZ 250mL 1V レボホリナート ()mg	90分	4-2) 5%TZ 250mL 1V ブスコパン 20mg 1A カンプト ()mg
			5)生食 30mL bolus5-FU ()mg	
	インフューザー 46時間	6)生食 100mL 2V 5-FU ()mg	全開	全量230mLになるように、 生食の量を調節
	7)ヘパリンNa点滴用10単位/mLシリンジ10mL 1A			

【Day2~3の内服薬】 ※症状に応じて省略可

Day2~3	デカドロン(4mg)	1錠	分1 朝食後	2日間
--------	------------	----	--------	-----

Day8	30分	1)生食50mL 1V デキサート 1.65mg 4A ポララミン 5mg 1A	
	1時間	2)生食250mL 1V アービタックス※()mg	
		3)生食50mL 1V	ルートフラッシュ(アービタックスと同じ速度で)

★ 投与スケジュール



【 注意事項 】

※ アービタックスは、Infusion reaction に注意！

本剤投与時にあらわれることがあるInfusion reactionを軽減させるため、本剤の投与前に抗ヒスタミン剤の前投薬を行うこと。さらに、本剤投与前に副腎皮質ホルモン剤を投与すると、Infusion reactionが軽減されることがある。

初回投与時には $400\text{mg}/\text{m}^2$ を2時間かけて、2回目以降は $250\text{mg}/\text{m}^2$ を1時間かけて点滴静注する。

Infusion reactionの症状の多くは、アービタックスの初回投与中又は投与終了後1時間以内に観察されているが、投与数時間後や2回目以降に重度のInfusion reactionを起こすこともあるので、毎回患者の状態に注意し、投与終了後少なくとも1時間は状態を観察すること。

特記事項